

地域外の人材を招致して地域力を高める「地域おこし協力隊」の制度。「うきはブランド推進隊」として、現在9人がミッションに取り組んでいます。各隊員から、最近の取組を紹介します。

観光プランナー  
菊池 隆寿

「うきは市 民泊会員さん」募集中！



観光プランナーとして、現在特に力を入れてるのが、うきは市内に滞在・宿泊していた多くの人を増やす取組です。2月から4月にかけて、お試し宿泊を呼び掛けるところ、東京・埼玉・福岡・鹿児島からはるばる、うきは市の民泊を体験に来ていただきました。うきはの美味しい野菜の味に感激したり、庭先での体験でお土産を作ったりと、それぞれの家庭での体験を気に入られ、大変満足して帰って行かれました。

民泊のお客さんは「遠い親戚」だからこそ、普段通りの生活の延長で肩肘はらず、ありのままの「暮らしぶり」をおすすめ分けることで、うきはの魅力を感じていただけです。美味しい「食材」と「家族の団欒」には、うきはだからこそ感じることが出来る魅力が詰まっています。そんな魅力を多くの人に感じてもらうための仕組みづくりを今年は頑張っています。週末限定や農閑期限定など、それぞれの家庭のできる範囲で旅行者の受け入れを行ってみませんか。

まずは一度、御相談しまして、受け入れに向けての話をしましょう。  
■問い合わせ 0805440354  
589（うきは市 民泊部会）

商工業振興プランナー  
竹森 聡子

皆様、U-B-i-C (Ukiha Business Center) という場所をご存じでしょうか。旧福岡銀行浮羽支店跡をリノベーションし、創業移住支援のワンストップ相談窓口を開設しました。そこに常駐しながら、うきは市内で頑張る中小企業・個人事業主・創業希望者の皆様のサポートをさせていただいています。

うきはよろず経営相談窓口（毎月第3火曜日）、創業支援セミナーの企画、女性起業家の支援等を行っています。

起業したい方がいらっしゃるでしょうか、ぜひU-B-i-Cへお越しください。

先月、石破茂・前地方創生担当大臣（写真中央）がU-B-i-Cに視察に来られた際、地域おこし協力隊との意見交換では緊張しましたが、「うきははってほんとに素晴らしいところですね」と言っていた嬉しかったです。私にも、いつの日かうきはで起業をしたいという夢があります。起業の先輩に出会えるこのお仕事は、私にとっても幸せです。こつこつ、ゆっくと頑張ります。



食資源活用プランナー  
門脇 美恵子

今年度が卒業の年になります。何度か広報紙のマンガで紹介していただきましたが、「食」をテーマに活動を行い、食を通じて人と資源と地域をつなぐ役割が私のミッションです。

これまで、市外への紹介・販売のためのマルシェや商品開発のセミナー・イベント等を行いました。今年も引き続き取り組んでいきたいと思っています。

うきは市に移住して、毎日、山の景色に感動していますし、四季を通じての果物等の成長を観る事ができるこの環境も感激の要素です。



これまで、稲刈り・そば刈り・キウイ・レモン狩り・ブルーベリー・オリブ・お茶葉摘みと体験させていただきました。ゴールデンウィークには子どもたちの「ちまき作り」を地域の方々に教えていただきながら楽しく作業を行いました。このような交流を大事にし、協力隊の活動や存在を少しずつでも市内の方々に知っていただきたいと思います。今年3月に、協力隊初の卒業生があり、これからも入替わりが続きます。新しく移住される方もいらっしやいますので、どうぞお楽しみに。

インバウンド推進プランナー  
矢倉 紗弥佳



4月20日、タイの写真家パニサさんが中学・高校の子どもたちを連れて、うきはを訪れてくださいました。

滞在の目的は日本の魅力の由来を探る教育旅行。

今回、ブランド推進隊の矢倉さんと案内人を務めました。日本の土地に根差した生業を見たいということ、案内したのは河北農園の茶畑、ちくご手づくり村の麵工場、杉工場の家具工場。自然を相手に工夫の凝らした仕事現場に興味津々でした。

姫治小学校の授業見学では、小学生がタイの子ども達に日本の童謡を教えるといった微笑ましい場面を見ることができました。

また、宿泊先の民宿馬場では、美しい自然の中でくたくたになるまで遊びまわっていました。最後に子ども達から「また来ます」と笑顔のひとこと。

インバウンド推進に向けて何をすべきか、まだまだ手さぐり状態の私ですが、遠い国から来られた方とのご縁をひとつずつ大切に、うきはの素敵なお店を伝えていくことの大切さを学びました。